

令和8年産二条大麦生育状況と今後の管理について

令和8年4月

備前広域農業普及指導センター

1 本年の気象と麦の生育状況

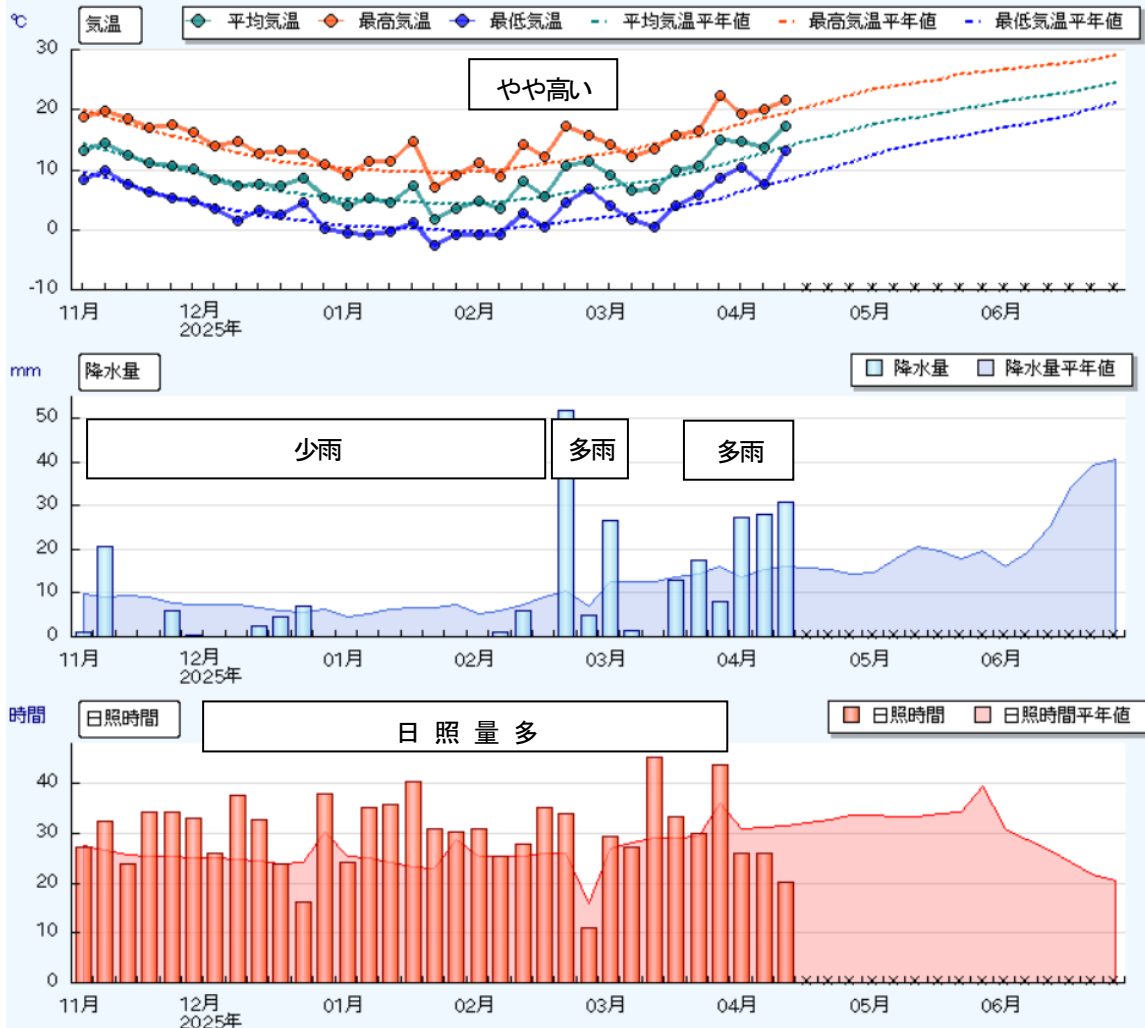


図 気象の推移 (アメダスポイント：岡山)

(1) 生育概況 (令和8年4月17日現在)

- 11月 気温は平年並みで、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多かった。
→ 10月下旬のまとまった降雨によりほ場準備が遅れたが、作業は順調に進んだ。
- 12月 気温は平年並み、降水量はかなり少なく、日照時間は平年並よりやや多かった。
→ 初期生育は緩慢であった。一部でスズメノテッポウが多発しているほ場がみられた。
- 1月 気温は平年並み、降水量はほぼなく、日照時間は多かった。
→ 分けつの発生がやや劣り、葉色が薄かった。12月に播種したものは発芽遅れた。
- 2月 気温は平年より高く、降水量は多く、日照時間はやや多かった。
→ 2月中旬の降雨後、分けつが旺盛葉色が濃くなり概ね順調であった。
- 3月 気温は平年並みよりやや高く、降水量は少なく、日照時間はやや多かった。
→ 茎数と葉色は概ね平年並であった。一部で湿害による黄化が見られた。

(概況) 穂数は平年並みの見込み。

サチホゴールデン 出穂期 4月1日～4月8日 (出穂期の中心 4月4日頃)

スカイゴールデン 出穂期 4月2日～4月11日 (出穂期の中心 4月5日頃)

(2) 今後の天候 (3か月予報、令和8年3月24日、広島地方気象台発表)

- 4月 天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や前線の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ない。
気温は高い見込み。降水量はほぼ平年並か多い見込み。
- 5月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い。
気温は高い見込み。降水量はほぼ平年並の見込み。
- 6月 平年と同様に曇りや雨の日が多い。
気温は高い見込み。降水量はほぼ平年並の見込み。

2 今後の管理について

(1) 赤かび病防除の徹底

赤かび病の発生は気象条件と密接な関係があり、開花期後半以降気温が高く(平均気温15度以上)、湿度が80%以上が3日以上続く場合や降雨または濃霧頻度が高い場合多発する。

上記のような曇雨天が続く場合は蒴殻抽出期(穂揃い期の7~10日後)の防除を必須とし、その前(7~10日)又はその後(7~10日)と組み合わせた合計2回を基本とする。

薬剤防除にあたっては使用回数、使用時期(収穫前日数)に注意する。

ほ場内の過湿は発病を助長するため排水路の整備や畦畔の除草を徹底する。

(2) 適期収穫

積算温度を基準とした別表を参考に刈り取る。週間天気予報を見ながら作業計画を立てる。

穀粒水分は25%以下で、穀粒をつぶして乳汁が出なくなった日4~5日後頃が目安である。

早刈り・高水分収穫は発芽勢の低下、刈り遅れは裂皮や変色など外観品質の低下の原因となる。多雨年の刈り遅れは品質低下や穂発芽を招くので注意が必要である。

(3) 排水対策

明きよは必ず排水口に繋げ、ほ場の排水を促して湿害防止に努める。

<スカイゴールデン適期収穫開始チャート>

令和2年度試験研究主要成果(岡山県)より抜粋

<p>成熟期2日後(収穫適期)</p> <p>子実水分: 22% 穂首角度: 約45~55° 等級: ビール等外上 出穂からの平均気温の積算: 約690℃ 芒、穂及び穂首節間は薄い褐色である。 穂首の湾曲が目立ち、全体の8割が45°程度以上。粒は薄い褐色で表面はなめらか。爪跡がわずかにつき、ほぼ切断できない。</p>	
<p>成熟期4日後(収穫適期)</p> <p>子実水分: 19% 穂首角度: 約70~80° 等級: ビール等外上~ビール2等 出穂からの平均気温の積算: 約730℃ 芒、穂及び穂首節間は薄い褐色である。 穂首の湾曲が進み、全体の8割が70°程度以上。粒は薄い褐色で、腹側にはしわが目立つ。粒は硬く、爪跡がつかず、切断できない。</p>	